

ルワンダ月報（２０１９年８月）

主な出来事

【日・ルワンダ関係】

- １６日、ルワンダ政府は、農業変革を通じた栄養改善のため、日本政府の１００億円の政策借款に署名した。
- ２８～３０日、横浜にてＴＩＣＡＤ７が開催され、ルワンダからはカガメ大統領ほか５大臣が出席した。

【外政】

- ６日、カガメ大統領はモザンビークを訪問し、モザンビーク平和・和解協定の署名式に立ち会った。
- カガメ大統領は、ザンビアのＳＤＧｓ南部アフリカ地域センター発足式に出席した。
- １９～２１日、カガメ大統領夫妻は、ナミビアを訪問した。
- ２１日、カガメ大統領とムセベニ・ウガンダ大統領は、二国間関係の修復のための覚書に署名した。

【経済】

- １日、ルワンダ教育省と世界銀行は、２億米ドルの譲与的借款に合意した。
- １３日、国際金融サービス会社 Standard & Poor's（Ｓ＆Ｐ）社がルワンダの長期信用格付けをＢからＢ＋に引き上げた。
- １４日、ルワンダ中央銀行は、２０１９年上半期の輸出額が７．５％増加したと発表した。
- １４日、ルワンダとブラジルは二国間航空サービス協定（ＢＡＳＡ）に署名した。
- １５日、ルワンダとドイツは、雇用創出、技能開発における協定に合意した。
- ２０日、ルワンダ開発庁（ＲＤＢ）は、２０１８年度のマウンテン・ゴリラ・ツアーの収益が前年よりも２５％増加したと発表した。
- ２５日、カガメ大統領は、フランスで開催されたＧ７サミットに出席した。
- ２８日、ルワンダとドイツのラインラント・プファルツ州は、農業分野における協力に合意した。

【その他】

- ５日、カガメ大統領は、キガリで開催された食の安全保障リーダーシップ対話（ＡＦＳＬＤ）に出席した。
- ２００人のルワンダ人奨学生が今月から中国に留学する。

※以下は、明示したものを除き、ルワンダの英字日刊紙 The New Times の記事を取りまとめたもの。

【日・ルワンダ関係】

・栄養改善のための日本の政策借款（１７日）

１６日、ルワンダ政府は、農業変革を通じた栄養改善のため、１００億円を日本政府から借り入れることとし、ンダギジマナ財務・経済計画大臣は、宮下駐ルワンダ日本大使との交換公文書（Ｅ／Ｎ）、丸尾ＪＩＣＡ所長とのＬ／Ａ（借款契約）への署名をそれぞれ行った。

・筑波国際スポーツ学院（ＴＩＡＳ）による研修開催（２２日）

２０～２３日、ＴＩＡＳの専門家がルワンダを訪問し、様々なスポーツ連盟のコーチやリーダーなど２５人を対象に、日本のコーチング、オリンピック・パラリンピック哲学、スポーツ科学における研究手法、反ドーピング教育などを含むスポーツの発展に関する３日間のワークショップを開催した。

・２０１９ＦＩＶＢビーチ・バレーボール世界ツアーにおける日本人男子ダブルスの優勝（２６日）

２４日、ルワンダ北西部ルバブのパール・ビーチにて開催された２０１９ＦＩＶＢビーチ・バレーボール世界ツアーの男子ダブルスにおいて、庄司憲右、倉坂正人選手の日本人ペアが優勝した。

・カガメ大統領のＴＩＣＡＤ７出席（２９日：ＲＮＡ）

２９日、カガメ大統領は、横浜で開催されたＴＩＣＡＤ７に出席し、安倍総理との二国間会談において、社会経済分野における両国間の関係を再確認し、二国間関係の質及び二国間・多国間協力の問題に関する見解の収斂を歓迎した。

【外政】

・モザンビーク平和・和解協定署名におけるカガメ大統領の立会い（７日）

６日、カガメ大統領はモザンビークを訪問し、ニュスイ・モザンビーク大統領とモザンビーク民族抵抗運動（ＲＥＮＡＭＯ）の間で行われた平和・和解協定の署名式に立ち会った。ニュスイ大統領は、２０１８年７月にルワンダを訪問している。

・リビアからの５００人以上のアフリカ難民受入れの用意（８日）

ギテラ（Diyana GITERA）外務・国際協力省アフリカ局長は、２０１７年のカガメ大統領による５００人の難民受入れに関するコミットメントに基づき、ルワンダは、ＡＵ、ＥＵ、ＵＮＨＣＲの支援により、ヨーロッパに渡航できずリビアに滞在している約５、０００人のアフリカ難民のうち、まず５００人を受け入れる用意があると述べた。ルワンダ政府は、過去２０年以上にわたり難民を受入れ、ＵＮＨＣＲとともに難民受入れを調整し、難民キャンプのための用地を提供し、キャンプの運営管理と安全保障を確実に行ってきた。ギヘンペ、キゲメ、キジバ、ムゴンブワ、ニャビヘケなどのキャンプ地では、特にコンゴ（民）やブルンジから数千人の難民を受け入れている。

・カガメ大統領のＳＤＧｓ南部アフリカ地域センター発足式出席

SDGs アフリカ・センター理事長を務めるカガメ大統領は、ザンビアのSDGs 南部アフリカ地域センター発足式に出席し、9月の国連総会におけるSDGs サミットに参加する意向を示した。

・ 中国浙江省知事のルワンダ訪問予定（14日）

9月6日、YUAN Jianjun 浙江省知事が、アリババ・グループを含む20人以上のビジネス関係者と共にルワンダを訪問する予定である。同訪問は、2018年7月の習近平国家主席のルワンダ訪問のフォローアップの一環である。

・ カガメ大統領夫妻のナミビア訪問（20日、21日）

19～21日、カガメ大統領夫妻は、ナミビアを訪問し、ゲインゴブ（Hage Gottfried GEINGOB）ナミビア大統領夫妻と二国間会談を行った。カガメ大統領は、ダイヤモンド加工会社を訪問し、また、貿易、投資、鉱物、航空サービス、農業、医療、観光、平和と安全保障、インフラ、エネルギー、ICT、環境、文化、教育などを含む協力協定に署名した。ジャネット・カガメ大統領夫人は、紛争後社会のトラウマとの闘い及び紛争後社会のアイデンティティの再構築における経験の共有とベスト・プラクティスに焦点を当てた「Be Free Nation Building Dialogue」に出席し、若者と政治家に対して、分断に伴う負の遺産について警鐘を鳴らした。

・ ルワンダ・ウガンダ関係修復のための覚書署名（22日）

21日、アンゴラの首都ルアンダにて、アンゴラ、ルワンダ、ウガンダ、コンゴ（民）の4大統領による首脳会談が開催され、カガメ・ルワンダ大統領とムセベニ・ウガンダ大統領が、ンゲソ・コンゴ（共）大統領臨席の下、ルワンダとウガンダの二国間関係の修復のための覚書に署名した。

【経済】

・ 教育分野における世界銀行の2億米ドル支援（2日）

1日、ルワンダ教育省は、世界銀行と教員の能力向上及び学生の学びの継続に関する2億米ドルの譲与的借款協定に署名した。

・ ルワンダの長期信用格付けの引上げ（13日）

国際金融サービス会社 Standard & Poor's（S & P）社が、ルワンダの長期信用格付けをBからB+に引き上げた。

・ 上半期輸出額の7.5%増加（15日）

14日、ルワンダ中央銀行は、2019年上半期のルワンダの輸出は、非伝統的輸出品にけん引され7.5%増加したと発表した。ただし、輸出が7.5%増加した一方、輸入が18%増加したことにより、貿易赤字が拡大した。

・ 雇用創出、技能開発に係るドイツとの協力合意（16日）

15日、アカマンジ・ルワンダ開発庁（RDB）総裁は、ドイツ経済協力・開発連合会長との間で、雇用創出、技能開発、投資分野における覚書に署名した。

・ ブラジルとの二国間航空サービス協定（BASA）の署名（16日）

14日、ルワンダとブラジルは、二国間の航空セクターにおける航空の専門知識や研修の共有などを含むBASAに署名した。ルワンダは、現在、アフリカ内外において91の航空サービス協定を締結している。

・ マウンテン・ゴリラ・ツアーの収益増加（21日）

20日、ルワンダ開発庁（RDB）は、2018年のヴォルケイノウズ国立公園のマウンテン・ゴリラ・トレッキングの収入は1,920万米ドルであり、前年度から25%増加したと発表した。同ツアー参加者数は15,132人である。また、RDBは、2016年の値上げ前のゴリラ・トレッキング参加者は22,219人で、ツアー料金を750米ドルから1,500米ドルに値上げした後も収入が増加していることを明らかにした。なお、ルワンダにおける外国からの年間観光客数は約170万人である。

・ カガメ大統領のG7サミット出席（27日）

25日、カガメ大統領は、フランスで開催されたG7サミット及びアフリカ・パートナーシップ会合に出席した。

・ ドイツのラインラント・プファルツ州による農業支援（30日）

28日、ムケシマナ・ルワンダ農業・動物資源大臣とウィッシング（Volker WISSING）ドイツ・ラインラント・プファルツ州経済、交通、農業、ブドウ栽培担当大臣は、主に技術主導型農業と持続可能なワイン産業など、農業分野における協力促進の合意書に署名した。

【その他】

・ カガメ大統領の食の安全保障リーダーシップ対話（AFSLD）出席（6日）

5日、カガメ大統領は、キガリで開催されたAFSLDに出席し、アフリカ大陸の飢餓をなくすための努力を呼び掛けた。

・ ドローン活用によるマラリア撲滅（13日）

ルワンダは、マラリア生息地域において、2019年末までにドローンを活用した防蚊材の散布を予定している。ルワンダ生物医学センター（RBC）は、全国実施に先駆けてガサボ郡で試験的に散布を行う。マラウィを含むアフリカ数か国がマラリア生息地域におけるドローンを活用した防蚊材の散布に既に成功している。

・ 国際刑事警察機構（Interpol）の開催（22日）

21～22日、Interpolがキガリで開催された。

・ ルワンダ人19人の英国留学（24日）

今年、19人のルワンダ人が、英国チーヴニング奨学金を得て、工学、ジェンダー、経済医学、法学、公衆衛生、エネルギー、メディア学などの分野の修士課程に留学する。これは、ルワンダにおける同奨学金の20年の歴史の中で、最も多い人数である。

・ ルワンダ人200人の中国留学（28日）

約200人のルワンダ人学生が、各種の奨学金を得て今月から中国に留学し、医学、土木工学、教育などの分野で学士号から博士号を目指す予定である。中国政府は、1976年にルワンダ人に対する奨学金制度を開始し、2015年からは受給者の数を増やした。中国に留学するための奨学金は、政府奨学金以外にも、中国の大学、孔子学院、地方政府が供与している。また、中国浙江省の金華職業技術学院は、ルワンダ北部県の高等技術専門学校（IPRC-Musanze）に技術開発センターを設立したほか、ルワンダ大学教育学部の孔子学院には13の中国語クラスがあり、5,100人以上が中国語を学んでいる。

（了）